

小場の廃寺 伝灯院

常陸大宮市域には、かつて多くの寺院がありました。江戸時代前期の寛文年間(1661~1673)の時点で、常陸大宮市域には少なくとも200を超える寺院が存在したことがわかっています。しかし、徳川光圀や徳川齊昭が実施した寺社改革や、明治初期の廃仏毀釈によって、寺院の多くがその姿を失いました。現在は、地名やわずかな史料、伝承からその痕跡を伺うことができますが、その実態については不明なことが多いです。今回は、その中から、小場地区にかつて存在した伝灯院について紹介していきます。

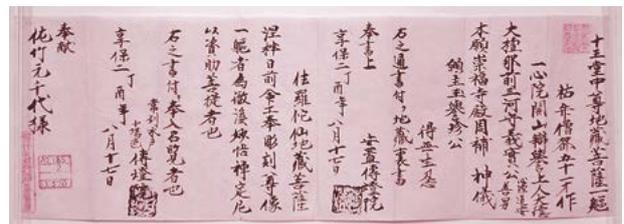
◇伝灯院の歴史

月溪山伝灯院は、小場字月溪山に所在した臨済宗の寺院です。旧小場小学校の西側にかつての境内跡と墓地が現存し、入口には寺名を記した石柱が立てられています。その創立は南北朝時代に遡り、康安元年(1361)に佐竹氏一族・小場義躬が創建し、開山には同じく佐竹氏出身の僧・月山周枢が携わったと伝わります。前号で紹介した常秀寺同様、小場氏の菩提寺として崇敬された寺院の1つで、小場氏歴代当主の内、2代惟義、5代義忠、6代義積の位牌を祀っていたことが「常陸御用日記」の記述から確認できます。特に6代義積の正室である月溪妙清大姉は、伝灯院の活動に大きく関与したとされており、伝灯院殿と称されました。伝灯院では彼女を祀るための御影堂や位牌などが制作されており、これら旧蔵品の一部は小場氏旧臣の三村家に伝来しています。



▲伝灯院跡地(小場地区)

江戸時代に入り、小場氏は国替えによって出羽国大館(秋田県大館市)へと移りますが、約100年経過した正徳5年(1715)、小場氏は常陸時代の事績調査を行うため、旧領である常陸国へ家臣を派



▲伝灯院書状(秋田県公文書館蔵)

遣し、かつての居城である小場城跡や伝灯院・常秀寺などを訪問しました。小場村の人々はかつての主君である小場氏関係者の来訪を非常に歓迎し、面会を求める者が後を絶たなかったそうです。彼らの交流は小場氏家臣が大館に帰ってからも続いており、伝灯院・常秀寺の僧や小場村民の一部が大館へ下向し、再会を果たした様子が三村家に伝わる古文書に記されています。伝灯院の僧は享保2年(1717)ごろに大館を訪問したとされており、同年に伝灯院から小場氏当主宛に出された書状が秋田県公文書館に伝来しています。

◇伝灯院の旧蔵品を展示しました

6月10日(土)~7月9日(日)の間、歴史民俗資料館で企画展「佐竹一族と中世の常陸大宮」を開催し、その一角に伝灯院の歴史と旧蔵品を紹介するコーナーを設置しました。企画展は終了しましたが、展示資料を掲載した図録を刊行しておりますので、興味がある方はぜひお買い求めください(1冊700円)。



▲伝灯院関係の展示コーナー

【参考文献】

・常陸大宮市文書館編『常陸大宮市文書館・歴史民俗資料館連携企画展図録 佐竹一族と中世の常陸大宮』令和5年

(高橋拓也)

■問い合わせ■

文書館 ☎52-0571